

優秀賞

家族をつなぐもの

福島県 福島大学附属中学校 一学年

西形 花璃

私の父は、自分のことをあまり話さない。決して無口なわけではないが、昔の思い出を聞いても、忘れたとしか言わない。一方、私の母は、昔の思い出から、面白かったテレビの話、今、母がはまっていること、今日あったことまでよく話してくれる。

そんなでこぼこな両親がなぜ結婚したのか、不思議になって、母に聞いてみた。「なんで、パパと結婚したの？あんまり自分のことを話さないし、何考えてるかわからないんじゃない？」すると母は、

「答えになるかわからないけど、こんなことがあったのよ。」と、いつものように話し出した。

結婚前、母は父に連れられて、生命保険の相談に行ったことがあるそうだ。父が死んだら母はどうするか。母が死んだら父はどうするか。病気になったときの手術代、通院費。それらに備えて、どの保険をいくら掛けるのか。それらを結婚前に話し合い、シミュレーションし、プランを組んでみたそうだ。

私はそれを聞いて、やっぱり、父はよくわからない人だと思った。結婚前と言ったら、まず、住む家を決めたり、家具や食器を選んだり。新婚旅行先を考えたりして、これからの二人の新生活に向けて準備する、希望に満ち溢れた時間という気がする。私が結婚するならば、まず最初に生命保険を考えることはないだろう。また、母に聞いてみた。

「どうして。パパは、結婚前に生命保険の契約を考えたんだろうね？」

「私も、ほんとにびつくりしたのよ。保険の話聞きに行こうって言われて。考えたくもないじゃない？今から結婚するってときに、病気になったり、どちらかが亡くなったときの話なんて。」

私が最初に考えたことと同じだ。やっぱり、結婚前に生命保険を考えるのはよくわからない。

「でもね、一通り相談が終わった帰り道、お父さんは、とてもほっとしたように見えたの。そのとき、『ああ、この人は一生をかけて私を守ろうとしてくれる』ってわかって、この人でよかったなって思ったの。この人は、言葉は多くないけど、行動で示す。信頼できるなあって。」

やっぱり私は、母が言っている意味がわからなかった。なぜ生命保険に入る

第61回中学生作文コンクール

ことが母を守ることにつながるのだろうか。

その後しばらく考えてみた。もしかしたら、保険に入るのは、もしものときの母や家族のため。そんな保険に入ること、母や家族を安心させることができるのではないか。父にとって、保険の話をするのは、一生かけて母と家族を守るという決意の表れだったのか……。そして、気づいた。そうか、保険に入ることは、母への愛だったんだ、と。

母への想いを、言葉でなく、生命保険に入るという行動で示すところが、父らしいなと思った。

今日も明日も、でこぼこな夫婦とその子供の私たちを、生命保険は守ってくれている。